

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

問 学校教育課 ☎63-3118

文部科学省は毎年4月に、児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育施策や学校の学習指導の充実に役立てる目的で、全国すべての小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施しています。宍粟市ではこの結果を分析し、子どもたちの長所はさらに伸ばすとともに、課題を解決するために、小・中学校と各家庭が連携して学力向上に取り組んでいます。

宍粟市の全体的な状況と特徴

教科に関する調査…2ページ

宍粟市の子どもたちの学力は全国平均と比べて同程度

正答率は全国平均と比べて小中学校ともに全教科±5パーセントの範囲内になりました。しかし、自分の考えを文章で書く記述式の問題などは正答率が低く課題がみられます。

R4年度と比べて学力は向上

令和4年度に小学6年生だった児童が中学3年生になって調査を受けた結果、全教科で全国との差が小さくなっています。理科のIRTスコアは全国平均と同程度です。



宍粟の子どもたちの特徴

調査問題に対する無解答率が全国平均と比べて低い

あきらめずに粘り強く取り組む姿勢や学びに向かう力が育まれています。

質問紙による調査…3ページ

①学習に関する状況

- ・課題解決に向けて自分で考え、工夫しながら意欲的に取り組んでいます。
- ・家庭学習の時間が全国と比べて短いです。

②生活に関する状況

- ・自分が役立っていると感じる自己有用感や他者への思いやりに関する質問に対して、前向きな回答の割合が全国と比べて高いです。
- ・読書の時間が全国同様に短く、「読書をしない」と答えた割合は4割に上ります。

調査の概要

(1)調査人数 小学校6年生【240人】 中学校3年生【279人】

(2)調査内容

ア 教科に関する調査

- ・小学校6年生【国語、算数、理科】
- ・中学校3年生【国語、数学、理科】

イ 児童生徒への質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する質問

出題された問題は
コチラ



※この調査により測定できるのは学力の一部です。結果の数値などが児童生徒の学力のすべてを表すものではありません。

※全国平均は公立学校の平均値です。

R7年度の学力の状況

平均正答率(紙媒体による調査)

区分	教科	宍粟市(%)	全国(%)	全国との比較(%)
小学校6年生	国語	66	67	-1
	算数	56	58	-2
	理科	57	57	±0
中学校3年生	国語	52	54	-2
	数学	43	48	-5

IRTスコア※(タブレットを使用した調査)

区分	教科	宍粟市	全国	全国との比較
中学校3年生	理科	503	503	±0

※IRT(Item Response Theory:項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論(基準500)

【よかつた点】

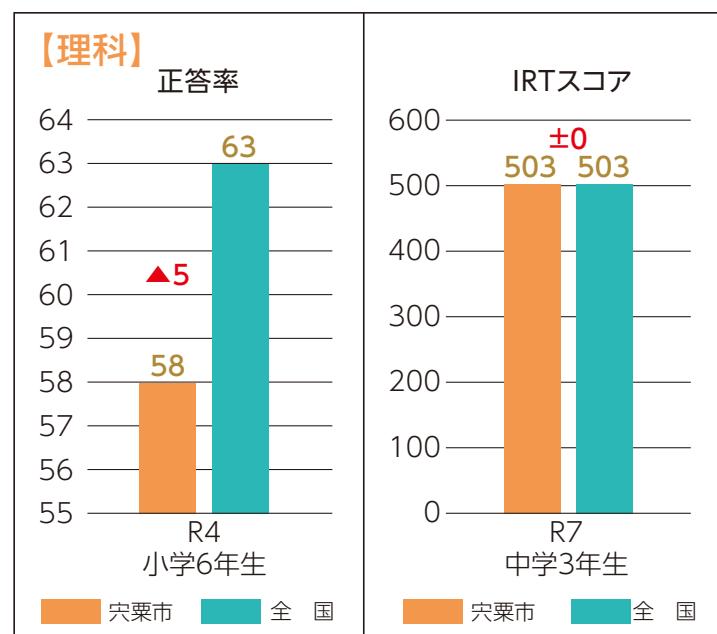
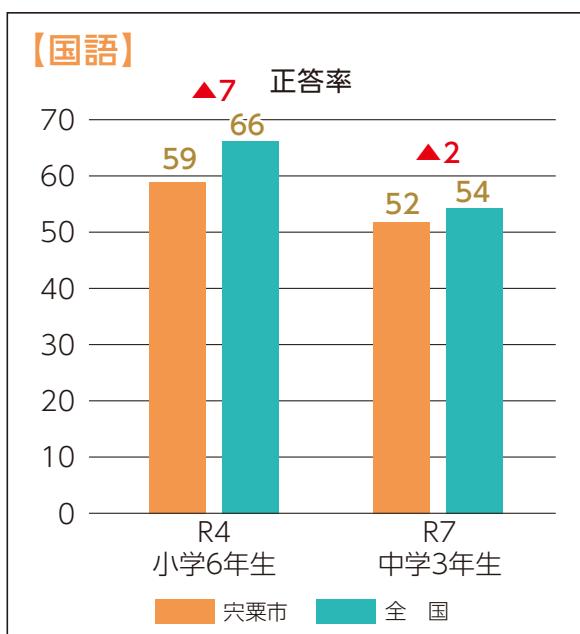
- ・(国語)話し手の考え方と比較しながら自分の考え方をまとめることができ、話の展開に注意して構成を工夫している
- ・(算数・数学)分数の足し算や一次関数の増加量計算など基礎的な問題の正答率が高く、着実な学びの積み重ねが見られた
- ・(理科)基本的な知識や技術の確実な定着が見られる。小学6年生では問題を解決するための適切な方法を考え表現すること、中学3年生では仮説から結果を予想することができている

【課題】

- ・(国語)文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えることや伝えたいことの根拠を明確にして書くこと
- ・(算数・数学)基準となる数を見いだし、数量の関係を捉えることや数学的な用語・表現についての知識の習得とその知識を活用すること

学力状況の推移(R4年度とR7年度)

R4年度の小学6年生がR7年度に中学3年生になり、国語は全国平均と比べた差が縮小しました。理科はR4年度の小学校6年生の正答率は全国と比べて5ポイント差がありました。R7年度の中学校3年生がIRTスコアで推定すると、全国平均と同水準でした。

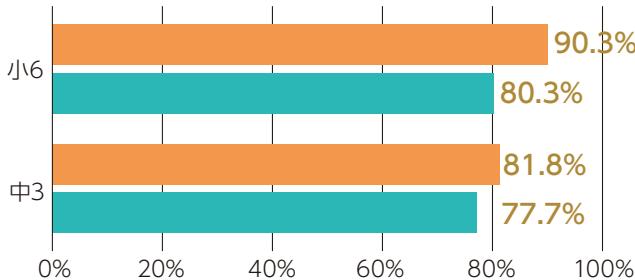


児童生徒の学習・生活状況(児童生徒質問紙調査から)

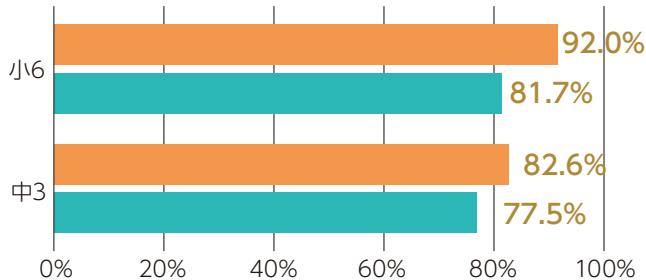
【学習に関すること】

宍粟市 全国

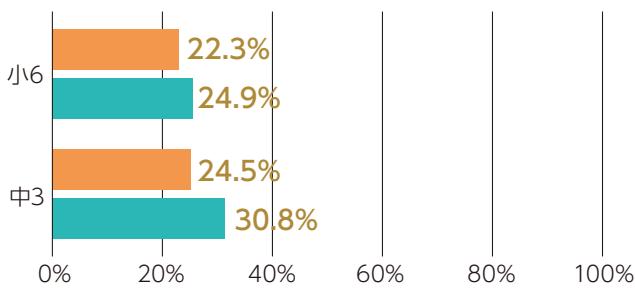
課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる



自分で学び方を考え、工夫することができる



学校以外の1日あたりの学習時間(月～金)2時間以上



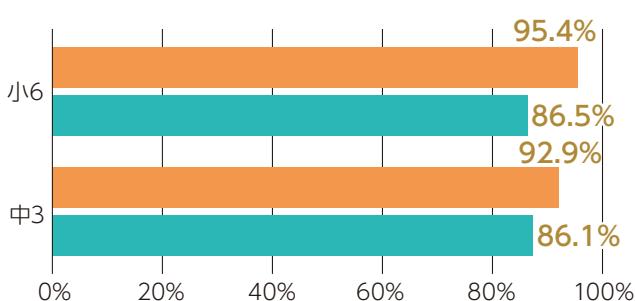
【傾向】

- 「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「自分で学び方を考え、工夫することができる」などの項目は小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が全国平均を大きく上回っています。
- 家庭学習の時間が2時間以上と回答した児童生徒の割合は全国平均を下回っています。家庭学習習慣の定着が継続的な課題です。

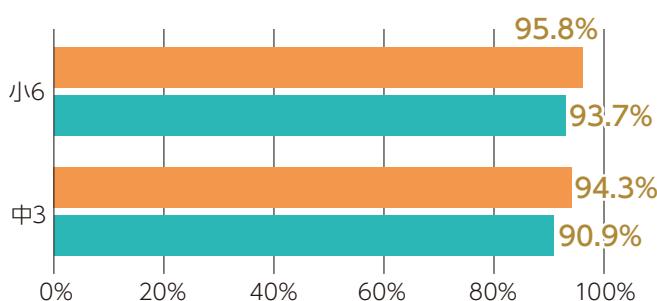
【生活に関すること】

宍粟市 全国

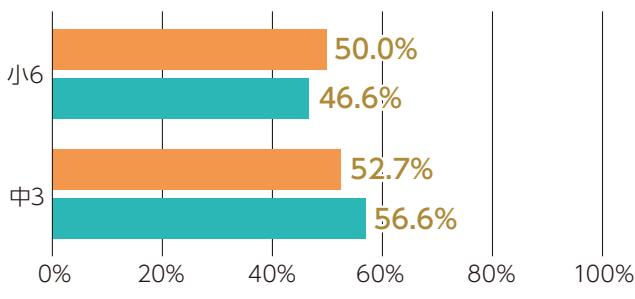
学校に行くのが楽しい



人が困っているときは、進んで助ける



学校の授業時間以外の1日あたりの読書時間(月～金)10分以上



【傾向】

- 「学校に行くのが楽しい」「人が困っているときは、進んで助ける」など自己有用感や人間関係、思いやりなどに関する項目に前向きな回答をした児童生徒の割合は全国平均を上回っています。
- 授業以外で読書を10分以上していると回答した児童生徒は約5割。そのうち「1時間以上」と回答した児童生徒は1割で、「全くしない」の回答が4割に上り、読書習慣の定着について課題が見られます。

子どもたちの「豊かな学び」と「確かな学力」の定着にむけて

宍粟市の子どもたちの学力向上に向けた取り組みを一部紹介します。

主体的に挑戦する力の育成

宍粟市では「総合的な学習の時間」を中心に主体的に課題解決を行う探究学習の取り組みを小中学校が連携して進めています。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け「しそう学力向上検討委員会」で学習・生活状況を分析し、すべての小中学校で授業や指導方法の改善・工夫に取り組んでいます。

ICTなどの基盤整備

ICT支援員による活用方法の指導やドリル教材などタブレット端末を積極的に活用して学習に取り組んでいます。さらに、子どもたちが情報機器と適切に関わっていくために、子どもや保護者向けの情報モラル研修を実施しています。

数学・理科甲子園ジュニア2025

2年連続入賞!

毎年、兵庫県教育委員会が開催する数学と理科の知識やその活用を競う大会「数学・理科甲子園ジュニア2025」に市内全中学校から1チームずつ参加しました。兵庫県内の中学校から69チームが参加し、千種中学校のチーム「サンフラワー」が5位に入賞しました。

理科おもしろ実験教室

市内の小学校5年生を対象に、科学のスペシャリストによる特別授業を実施しています。今年はモーターを電気の力で動かす実験を行いました。



宍粟市教育長杯中学校英語スピーチコンテスト

10月に開催された「宍粟市教育長杯中学校英語スピーチコンテスト」は今年で20回目。英語力や表現力を競うこのコンテストは、中学生の国際的な視野の育成を目的に開催されています。また、市では市内中学生を対象に「実用英語技能検定(英検)」の受験料を年度ごとに1回、全額補助しています。

「家庭学習の手引き」の活用

学習習慣の定着を図るために、学校ごとに宿題や自主学習の方法をまとめた「家庭学習の手引き」を配付しています。この手引きを活用し、学校と家庭が連携しながら家庭学習の習慣化と質の向上に取り組んでいます。

今後の重点方策

今回の結果を踏まえ、市では子どもたちの強みを大切にしながら、しそう学力向上推進プロジェクト事業で3つのハードルを設定し、すべての子どもたちの確かな学力を育成する取り組みを進めます。

第1のハードル ～自尊感情～

- ◆自己肯定感を育成する授業づくり
- ◆探究学習の取り組み
- ◆体験学習の充実
- ◆キャリア教育の推進

第2のハードル ～学習習慣～

- ◆家庭学習の習慣づけ
- ◆学校での学習習慣の定着
- ◆読書タイムの定着や読書ボランティア活動の連携による読書習慣の確立

第3のハードル ～目的意識～

- ◆めざす未来像の意識
- ◆目標や学びの振り返り
- ◆なぜ学習するのかを理解
- ◆「学ぶ」ことの意味づけ

家庭学習や読書の習慣の定着には家庭との連携が必要不可欠ですので、今後もご協力ください。